

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成31年 2月26日

事業所名 ステップあそかの園

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標・工夫している点など
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6			学習スペースと遊びのスペースを分けている。園庭を有効に活用している。
	2	職員の配置数は適切である	6			基準を超えた職員を配置、担当制にし、集団支援、個別支援に対応している。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6			建物内外をバリアフリーとしている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6			日々のミーティングの中で、職員が意見を出し合い業務改善に努めている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6			保護者向けに、年に一度アンケートを行っている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6			ホームページで公表する予定。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			6	現在第三者評価は受けていない。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6			職場内研修を定期的に行っている。又、自主研修も推奨しており研修の機会の確保に努めている。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6			子ども、保護者のニーズ等を確認した上で、課題等を考え個別計画を作成している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6			共通のアセスメントシートを利用している。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6			職員全員が参画しプログラムの立案を行っている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6			子ども達の興味や関心を考慮し、工夫を行っている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6			活動時間時間によって、全体、個人の課題を増やす等工夫している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6			子どもひとり一人の特性、成長段階に応じた集団活動、個別活動が提供できるよう、個別支援計画を作成している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6			午前のミーティングでその日の流れを職員全体で共有し、支援がスムーズに行われるよう配慮している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6			子どもの送迎後の時間を利用し、その日の子ども達の情報交換を行っている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6			記録することが、日々の支援の検証。改善に繋がるように心掛けている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6			原則6カ月に一度行っている。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	6			ガイドラインの基本活動を参考に支援の展開を考えている。

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6		担当中心に支援を行う体制であるため、基本担当者が参画している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6		送迎時、学校との情報共有を行っている。また行事のご案内等で情報を貰っている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		6	必要な場合は保護者との話し合いの上検討する。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6		必要に応じ、利用前の情報共有に努める。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	6		必要に応じ、移行先への情報共有等努める。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6		専門的な助言や、研修の必要性を理解した上で、必要時には連携を行う。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある			6 現在の所は行っていないが今後、「インクルージョンを意識して、地域のイベント」など機会を見つけ参加したい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	6		自立支援協議会、子ども部会に所属。定例会や、部会内でのワーキンググループに管理者が参加している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6		日々の送迎時の情報交換や、連絡帳での情報共有を大切にしています。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		6	まずは、職員がペアレント・トレーニングの理解を深めたいと考えている。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6		説明は契約に行っているが、疑問が生じた場合適宜対応している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6		保護者さんに寄り添った対応を心がけている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している			6 ニーズを確認し、必要に応じ開催する。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6		苦情対応窓口を管理者とし、迅速な適正化を図っている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6		法人の会報、フェイスブックでの発信等を行っている。長期休みには予定表を事前に配布している。
	35	個人情報に十分注意している	6		守秘義務は就業規則で定めている。また、個人情報について内部研修を行っている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6		子どもひとり一人の特性に応じた伝達手段が行えるよう配慮している。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	6		関係者の見学や、実習などを積極的に行い、地域に開かれた施設を目指している。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6			緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを掲示している。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6			消防法定(2回/年)の避難訓練を行っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6			管理者が研修に参加、又、内部研修を行っている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		6		現在の所該当児童はいないが、身体拘束が必要な場合には正しい手順で慎重に対応する。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6			保護者からの情報を受け実施している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6			職員全員で検討、共有している。